

新型コロナウイルス感染拡大の渦中で

春日部・野田がん哲学外来&メディカルカフェ

高野 みどり

感染拡大防止対策が始まり早9カ月になります。5月25日に緊急事態宣言が解除されましたが、ホッとする間もなく未だに感染者が確認されています。千葉県野田市において87例が確認され、今日も更新し続けられています。

カフェはまず開催場所を失いました。春日部カフェは2月より現在も休会です(教会)。野田カフェ(公民館)は、会場確保はされているものの開催には多くの制約がありました。毎月市報にはイベント情報として掲載しています。

そこで当初の対応は、新規の参加申し込みの方を中心に私が対応しました。緊急事態解除となり6月から一旦再開しましたが、依然感染者の増加や無症状の感染者の増加を鑑み、定例会を休止し、スタッフ間ではグループメールでやり取りをし、新来者には私が個別対応としました。

この間変化したことは、電話やメールの相談が増えたことまた遠隔地からの定期的相談が増えたことです。ある方は肺がんで夫を亡くされ寂しさで押しつぶされそうになっている、ある方は非日常的な腫瘍の宣告を受け不安の中におられるなど。定例会とは違い支援が必要となったその時に対応できることが多くなったといったメリットも見えてきました。

今後は感染予防対策を行いつつ、徐々に平常に戻したいと思います。しかし、感染のリスクが大きい参加者のことを考え、会場とウェブを結び会場以外でも参加できるカフェの在り方を目指して、準備を開始しました。

野田カフェの最大の特典は、30分足らずの所に柏がん哲学外来の面談が開かれていることです。9月14日(月)には、面談者に同行し同席させて頂き、言葉の処方箋を頂くことができました。面談の後にはランチを囲んで榎野先生のトークと言った祝福の時も与えられました。



みんなの“良い塩梅の場”となるように
小海がん哲学カフェ「そと」代表 佐藤 亜紀

私自身、現在がんの通院加療中です。同室の方との対話が気持ちを前向きにしてくれるという経験から、病と共に生きていくことを与えられた者同士の交流の場を作れたら良いな、と思っていました。

2月に八ヶ岳メディカルカフェに参加し、とても有意義な時を過ごさせて頂きました。私自身もカフェを開催したい旨をお話したところ、是非にと快くアドバイスもいただき、さあ、春から始めよう！という時に新型コロナウイルスの感染拡大の危険が。開始すべきか迷っている時期に、診察を終えて病院の玄関を出たところで一人の女性に話しかけられました。「抗がん剤の治療をされているのですか？」

聞けば1週間後に抗がん剤の治療を受けるか否かを決めなければならず、悩んでいるとのこと。待合室で帽子姿の私を見かけて思い切って尋ねたそうです。15分ほど立ち話をし、「良い選択が出来ますように」と別れました。このタイミングでの不思議な出会い。対話を必要としている方がいる。背中を押される思いでした。

「そと」はみんなの良い塩梅の場になるようにと命名しました。空っぽの頑丈な器を用意したいと願っております。末永くよろしく願いいたします。

小海がん哲学
カフェそと 

当事者の方、ご家族、友人など、どなたでもお気軽にお越しください。皆様にとって良い塩梅の場になるように願いつつ、お待ちしております。

日時 9/15(火) 10/20(火) 11/17(火) 12/15(火)

各回 13時30分～15時

場所 小海キリスト教会

長野県南佐久郡小海町大字小海4355-27

参加費 200円(お一人様)

※筆談または手話での対応もできます。



<編集後記>

八ヶ岳カフェでお会いした佐藤亜紀さん。こんなに早く「そと」カフェを立ち上げて下さるとは。

オープンの日。他の定例カフェと重なっていてどうにも駆け付けられず、まことに残念！(星野昭江)